



トピックス

希少樹種の生息域外保存の取り組みについて

林木育種センター 遺伝資源部 星 比呂志

1 はじめに

2000年7月に発行された、環境省編「改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物 - レッドデータブック 8 - 植物 (維管束植物)」(通称:レッドデータブック)には、1,800種類以上が絶滅の恐れがある植物として掲載されています。日本列島には6,000種近い野生植物(亜種や変種を含めると8,000を超える)が生育しているとされていますので、野生植物の20~30%の種類が、程度の差はあれ、絶滅の危険性があると考えられています(表-1)。このうち、木本植物は約300種を数え、絶滅危惧種のうちの約1/6となっています。

表-1 レッドデータブックに掲載されている絶滅の恐れのある植物の種類数

絶滅危惧のランク	野生植物全体	木本植物(注)
絶滅(EX)	20	1
野生絶滅(EW)	5	2
絶滅危惧 A類(CR)	564	93
絶滅危惧 B類(EN)	480	69
絶滅危惧 類(VU)	621	111
準絶滅危惧(NT)	145	36
計	1,835	312

(注)原則として、レッドデータブックの各分類群の説明において、「高木」、「低木」、「木本性」等木本であることが明示されているものについて集計したものを。

このようなことから、林木育種センターでは、希少・貴重な林木遺伝資源の確保の観点から、希少樹種の収集、増殖及び生息域外保存とこれらに関する調査研究を進めています。以下に、その実施例を紹介します。

2 希少樹種の生息域外保存

[サカイツツジ]

サカイツツジはツツジ科の常緑低木で、日本では北海道の根室半島の落石岬1箇所にみに分布しており、絶滅危惧 類にランクされています(写真-1)。

林木育種センター北海道育種場では、平成12年度から、北海道森林管理局等の関係機関の協力を得て、種子の収集と増殖に取り組むとともに、種子の発芽試験と貯蔵試験、実生繁殖試験及びさし木増殖試験等に取り組んでいます。



写真-1 サカイツツジの生育地での開花状況(左)と種子繁殖により養成中の苗木(右)

これまでに、種子の貯蔵方法、発芽床の用土の種類、成長の良い育苗条件などを明らかにしてきました。現在定植に向けて苗木を養成中です(写真-1)。

[ハナノキ]

ハナノキはカエデ科の落葉高木で、日本の固有種です。岐阜県、愛知県及び長野県の限られた場所に生育しており、絶滅危惧 類にランクされています(写真-2)。



写真-2 ハナノキの自生地(岐阜県瑞浪市釜戸町)(左)とさし木増殖を経て保存園に定植した個体(右)

林木育種センターでは、平成5年から、関係機関の協力を得て穂を収集し、さし木・つぎ木による増殖を行ってきました。ハナノキはさし木・つぎ木等のクローン増殖が困難な樹種ですが、ミスト灌水等によりさし木発根率を向上させることが出来ました。

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。

また、効率的で適切な生息域外保存を行うためには、遺伝的多様性の評価を行う必要がありますので、本誌第2号 - 7と第5号 - 4で紹介した準絶滅危惧のサクラバハノキとともに、その評価技術の開発にも取り組んでいます。

[ヤクタネゴヨウ]



写真 - 3 ヤクタネゴヨウの天然木（屋久島）

ヤクタネゴヨウはマツ科の高木で、屋久島と種子島のみに分布しています。マツノザイセンチュウの被害等により個体数は減少しており、絶滅危惧IB類にランクされています（写真 - 3）

林木育種センター九州育種場では、屋久島と種子島の天然林又は天然木

から穂や種子を採取しつぎ木と播種により増殖を行い、保存しています（写真 - 4）



写真 - 4 ヤクタネゴヨウのつぎ木による増殖（左）と、つぎ木増殖を経て保存した個体（右）

また、減少した個体を回復するためには、生息地での天然更新を促進する方法とともに、生息域外保存した個体から種子を生産し、苗木を生息地に植え戻すことも有効な方策です。このため、九州育種場では、実験採種園の設定、着花・結実促進処理、人工交配等の技術開発も行っています。この成果は、九州森林管理局が実施しているヤクタネゴヨウの増殖事業に活用されています。

[南西諸島及び小笠原諸島の樹種]

林木育種センターでは、絶滅危惧種が多く分布する南西諸島及び小笠原諸島についても関係機関と連携して林木遺伝資源の収集・保存を行っています。

南西諸島の樹種については、遺伝資源の収集と増殖を行うとともに増殖技術の開発を行っており、ヤエヤマシタン（絶滅危惧 A類）等の絶滅危惧種についても取り組んでいます（写真 - 5）



写真 - 5 ヤエヤマシタンの果実（左下）と、播種により養成した苗木

西表島については、平成14年度から、九州森林管理局と共同で「西表島郷土樹種等林木遺伝資源保存事業」を行っており、島内で収集し増殖した苗木を、西表島南風見国有林内の西表亜熱帯樹木展示林に定植して保存することとしています。平成16年11月には最初の苗木の定植を、小中学校児童生徒をはじめとする地元の方々に参加をいただいた記念植樹という形で行いました。

小笠原諸島の樹種については、本誌第4号 - 1でも紹介しましたが、関東森林管理局と共同で、(社)ゴルフアの緑化促進協会の協賛も得て、母島に自生する13樹種の種子の収集と増殖に取り組んでいます。このうち、4樹種が絶滅危惧 A類に、2樹種が絶滅危惧 類にランクされています。絶滅危惧 A類のオオヤマイチジクを含む6樹種については、平成16年5月と11月に、母島桑ノ木山国有林内の小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林内に定植して保存しました。他の樹種についても、今後、順次、保存林内に定植して保存する予定です。



写真 - 6 オオヤマイチジクの天然木（母島）（左）と播種により増殖して保存林に定植した苗木（右）

希少樹種の生息域外保存は、これまでも林木育種センターの業務の中で重要なものと位置づけており、今年度も絶滅危惧 類のヤツガタクトウヒをはじめ多くの希少樹種の収集を行っています。今後も関係機関と連携を取りながら計画的に進めていく予定です。